

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
情報の科学	情報の科学	1	1学年全クラス	2	必修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	安達里香
授業形態	講義・演習・実習・鑑賞 等
教科書	改訂版 高等学校 情報の科学 数研出版
使用教材等	改訂版 情報の科学 サポートノート／数研出版 パーフェクトガイド情報 Office2013対応／実教出版

科目の目標・内容等

学習目標	情報技術の役割や影響を理解させるとともに問題解決力を習得させ、 情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる
学習における 留意点	基本的な事柄を理解し、情報を扱う上での倫理感と情報化社会に対応していこうとする 意欲を持ち、情報を主体的に活用する事を学ぶ
予習・復習	教科書の該当範囲の用語について復習をさせるとともに、自宅などでコンピュータを活用させるように促す
評価方法	定期考査・提出物・発表など授業に取り組む姿勢を総合的に判断する

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	序編 情報とメディア 第1章 情報とは 第2章 メディアとは 第3章 情報のデジタル 化 第4章 インターネットの活 用 第4編 情報社会と情報モラ ル 第1章 情報システムと人 間 第2章 情報社会の光と影 第3章 情報セキュリティの 確保 第4章 情報社会における 法と個人の責任	・情報を学ぶにあたり、情報通信技術 の発達と社会の変化を概観し、情報 化が社会に及ぼしている影響を理解 させるとともに、これからの学習への 関心や意欲を高めさせる ・情報の収集、評価、判断が常に身近 で行われていることを再認識させ、情 報の受信時に配慮すべき事項を理解 させる ・著作権、産業財産権などの法規の制 定の趣旨や情報産業とのかかわりな どについて理解させる	情報を適切に収集・処理することがで きるか 情報モラルを強く意識し、これを踏ま えた適切な判断をすることができるか 情報が持つ意味や働きについて関心 を持ち、適切に収集する方法や情報を 評価・判断する方法について理解して いるか 著作権などの知的財産権を保護する 事の必要性について考え判断し、その 結果を適切に表現することができるか
2	第1編 コンピュータとディジ タル情報 第1章 コンピュータのしく み 第2章 情報のデジタル 表現 第2編 情報通信ネットワ ーク 第1章 コミュニケーション 手段の発達 第2章 インターネットのし くみ 第3編 問題解決とコン ピュータ(2, 3学期) 第1章 問題解決 第2章 問題の解決と処理 手順の自動化	・情報のデジタル化の基礎的な知識 として、アナログとデジタルのちがい とそれぞれの特徴を理解させる ・コンピュータにおいて、情報が処理さ れるしくみや表現される方法を理解さ せる ・問題解決の目的や状況に応じて、適 切な方法を選択する事の重要性を考 えさせる ・コンピュータによる処理手順の自動 実行の有用性を理解させる ・プレゼンテーションを通して情報を発 信する方法を工夫して考え、結果を踏 まえて改善する	情報のデジタル化について関心を持 ち積極的に活用しようとしているか アルゴリズムやシミュレーション・プロ グラミングに関心を持ち、問題解決の 手順をアルゴリズムを用いて表現する 事ができるか コンピュータを適切に活用して情報発 信をおこなうことができるか
3	第3編 問題解決とコンピュ ータ 第3章 データベース 巻末実習 ・表計算ソフトウェアの使い方 ・データの表現による印象の違い	表計算ソフトウェアの利用を通して、適切 に情報を処理することができるようにする	年間を通して、コンピュータの基本的 な操作ができる技術を身につけている か 表計算ソフトウェアやデータベースに 関心を持ち、積極的に活用しようとして いるか 情報モラルについて強く意識しながら

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
情報の科学	情報の科学	3	3学年全クラス	2	必修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	安達里香・小針保男
授業形態	講義・演習・実習・鑑賞 等
教科書	改訂版 高等学校 情報の科学 数研出版
使用教材等	改訂版 情報の科学 サポートノート／数研出版

科目の目標・内容等

学習目標	情報技術の役割や影響を理解させるとともに問題解決力を習得させ、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。
学習における留意点	基本的な事柄を理解し、情報を扱う上での倫理感と情報化社会に対応していこうとする意欲を持ち、情報を主体的に活用する事を学ぶ。
予習・復習	教科書の該当範囲の用語について復習をさせるとともに、自宅などでコンピュータを活用させるように促す
評価方法	定期考査・提出物・発表など授業に取り組む姿勢を総合的に判断する

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	序編 情報とメディア 第1章 情報とは 第2章 メディアとは 第3章 情報のデジタル化 第4章 インターネットの活用 第4編 情報社会と情報モラル 第1章 情報システムと人間 第2章 情報社会の光と影 第3章 情報セキュリティの確保 第4章 情報社会における法と個人の責任	・情報を学ぶにあたり、情報通信技術の発達と社会の変化を概観し、情報化が社会に及ぼしている影響を理解させるとともに、これからの学習への関心や意欲を高めさせる ・情報の収集、評価、判断が常に身近で行われていることを再認識させ、情報の受信時に配慮すべき事項を理解させる ・著作権、産業財産権などの法規の制定の趣旨や情報産業とのかかわりなどについて理解させる	情報を適切に収集・処理することができるか 情報モラルを踏まえた適切な判断をすることができるか 情報が持つ意味や働きについて関心を持ち、適切に収集する方法や情報を評価・判断する方法について理解しているか 著作権などの知的財産権を保護する事の必要性について考え判断し、その結果を適切に表現することができるか
2	第1編 コンピュータとデジタル情報 第1章 コンピュータのしくみ 第2章 情報のデジタル表現 第2編 情報通信ネットワーク 第1章 コミュニケーション手段の発達 第2章 インターネットのしくみ 第3編 問題解決とコンピュータ 第1章 問題解決 第2章 問題の解決と処理手順の自動化	・情報のデジタル化の基礎的な知識として、アナログとデジタルのちがいとそれぞれの特徴を理解させる ・コンピュータにおいて、情報が処理されるしくみや表現される方法を理解させる ・問題解決の目的や状況に応じて、適切な方法を選択する事の重要性を考えさせる ・コンピュータによる処理手順の自動実行の有用性を理解させる ・プレゼンテーションを通して情報を発信する方法を工夫して考え、結果を踏まえて改善する	情報のデジタル化について関心を持ち積極的に活用しようとしているか アルゴリズムやシミュレーション・プログラミングに関心を持ち、問題解決の手順をアルゴリズムを用いて表現することができるか コンピュータを適切に活用して情報発信をおこなうことができるか
3	第3編 問題解決とコンピュータ 第3章 データベース 巻末実習 ・表計算ソフトウェアの使い方 ・データの表現による印象の違い	表計算ソフトウェアの利用を通して、適切に情報を処理することができるようにする	年間を通して、コンピュータの基本的な操作ができる技術を身につけているか 表計算ソフトウェアやデータベースに関心を持ち、積極的に活用しようとしているか

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

平成31年度 情報 科

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
情報演習	情報の科学	3	3年選択	2	選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	高橋聡
授業形態	講義・演習・実習・鑑賞 等
教科書	改訂版 高等学校 情報の科学 数研出版
使用教材等	Windows8・Office2013による情報処理入門 実教出版

科目の目標・内容等

学習目標	コンピュータを活用した創作活動およびグループワーク等を通じて、総合的な問題解決能力や情報社会に主体的に対応・参画できる能力と態度を身につける。
学習における留意点	遅刻・欠席をしない。
予習・復習	CALL教室での自学自習など。
評価方法	実技テスト・提出物(数・質)・授業態度・遅刻の有無をもとに総合的に評価。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	第1章 パソコンの概要と日本語変換について 第2章 インターネットの活用とセキュリティ 第3章 ワードプロを用いた文書作成の技術	・文字の入力や文章の入力、特殊な入力方法について学ぶ ・文の入力や文書の保存と読み込み、印刷方法等を学ぶ ・編集機能や表の作成方法、ビジュアルな文書作成について学ぶ ・自らが問題解決できるようにマニュアルの読み方やヘルプの使い方を学ぶ	目的に応じて情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的・応用的な知識・技能を習得することができたか グループワークに積極的に参加し、取り組むことができたか
2	第5章 実務で使う表計算 第6章 ソフトウェアの統合的活用	・基本的なワークシートの編集や書式設定、グラフの作成と設定について学ぶ ・関数の利用について学ぶ ・基本的な操作方法を学ぶとともに、実践的な問題を用いて問題解決や分析の方法を習得する ・実践的なソフトウェアの活用能力を身につける	目的に応じて情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的・応用的な知識・技能を習得することができたか グループワークに積極的に参加し、取り組むことができたか
3	第6章 ソフトウェアの統合的活用	・複数のアプリケーションの統合的な実践練習をする ・トレーニングの中で、実践的なソフトウェア活用能力を身につける	目的に応じて情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的・応用的な知識・技能を習得することができたか グループワークに積極的に参加し、取り組むことができたか

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。